



「つくり手インタビュー」番外編

ネットワークで家づくり

ひとときネットと
ワークショップ「き」組の場合



ひとときネット

「滋賀県で住まいを建てるならひとときネット」という地元になぞしたネットワーク。県産材も積極的に活用。第二土曜日の「ひとときクラブ」など、地元の家づくりを考える場をつくっている。



ワークショップ「き」組

伝統構法の家は高いというイメージを払拭するための標準仕様を作成。無駄を省いた設計、徹底した適正価格による積算、工務店との合意で、モデルプランができあがった。

「いつものチーム」をネットワークと名付けた

伝統構法・木組みの家づくりを、普通の人の手の届く価格です。そのためのネットワークが、木の家ネット会員の間から生まれてきています。その中から、滋賀県の『ひとときネット』と、東京の『ワークショップ「き」組』をご紹介します。どちらも、伝統構法の木の家づくりをしたい人のために、家を施工するネットワークで、窓口として相談にのって図面にとまどめる設計者と、伝統的な技術をもっていて実際に施工する、腕のたしかな工務店や大工さんとがチームを組み、自ら「ネットワーク」と定義しています。

手頃な価格で木の家づくりを実現するシステム



木と自然材料を生かした家
(ひとときネット)



適正価格モデルとなった家
(ワークショップ「き」組)

木の家ネットの会員になっているつくり手は、だれもが仲間とこうした協働関係を築いて仕事をしてきています。この、普段から協力しあって木の家づくりをしている「いつものチーム」にあえて「ネットワーク」としての名前を付け、「このネットワークで、普通に手の届く価格で木の家づくりができますよ」と名乗りをあげています。伝統構法は手仕事ですから、簡単に施工できてしまう住宅とくらべると、どうしても大工さんの手間がかかります。もともと技術をもった人同士がネットワークを組んでいるのですから、お金をいくらでもかけてよいのなら、むずかしいことではないのですが、それを限られた予算の中で、大工さんの手間以外にも、素材や設備にかかる費用をみながら実現するには、いろいろな工夫が必要です。今までと木の家づくりをしながら培ってきた経験から、それを方法論として定着させ「この位の予算でできますよ」とシステム化しているのが、ネットワークの最大の特徴です。

理念と現実。両方そろって、人が動く

またネットワークに名前をつけ、マークをつくり、パンフレットやWebサイトでこのようなネットワークで家づくりをする考え方や方法、意義などをあらわしていくので、ネットワーク内部でも目的意識が明確になり、外から見ても「分かりやすく」なります。手頃な価格で木の家づくり、というだけでなく、そうすることが住む人の健康や自然環境に対してどのような意義をもつのか、ということもそこにきちんと表明されます。

どんな家づくりをしたいか。決め手となる動機は「安いから」だけではないでしょう。将来を見据えれば、荒れた山を回復する、職人文化を継承するなど、環境や文化に対する責任など、社会性も考えに入れたい。価格的にも自分たちに手の届く範囲で、そうしたことにまで関与できるなら、こんなによいことはない！ 実際にネットワークでの家づくりによびかけに応え、参加してきているのは、そんな住まい手たちです。

説得力のあるそれぞれのよびかけ文



『ひとときネット』のWEBサイト。



『ワークショップ「き」組』のWEBサイト。

パンフレットやWebサイトで一番はじめに目にするあいさつ文。そこにはそれぞれのネットワークの思いが、明るく、力強く表明されています。

ひとときネット

…木造の住まいはよいと思うが「値段が高いのでは」「現代の生活様式にあてはまらないのでは」「安心して頼める工務店を知らない」「設計事務所はなんとなく頼みづらい」などの理由で、あきらめている方は多いのではないのでしょうか。『ひとときネット』ではそんな住まい手の方々の要望に答えるため、国産材を利用した木を活かした住まいづくりを実践している設計事務所や工務店がネットワークを組み、一般的に建設されている価格帯で産地のはっきりした乾燥された国産木材を利用し、大工職人の伝統的な技術を活かしながら、耐久性が高く、デザイン性に優れた住まいづくりを行うシステムをつくりました。

ワークショップ「き」組

…このサイトは「木の家は高くて手が出せない」とか「つくる職人がいない」と家づくりの夢をあきらめかけている方のためのホームページです。私達は「無垢の木の家に住みたい」と考える住まい手の皆さんに、手の届く価格で「よい家」を提供したい。「伝統の技を持つ腕のよい職人さん」たちに「よい仕事」を残してもらいたい。「荒れている日本の山」に木を再び植える事によって「美しい山」に戻したい。という思いから、このプロジェクトを運営したいと考えています。この考えに賛同してくださる方達の、新しい関係を『ワークショップ「き」組』と呼びます。

——— それでは「普通の人にも手が届く木の家づくり」を実現した秘訣は、いったいなんなのでしょう？実は人と人のつながり方に、ポイントがあるのではないかと。二つのネットワークの牽引役であるお二人と話していて、そんなことを感じました。

競い合う関係から、対等な信頼関係へ

施主はつくり手から見ると「お客様」であって、その希望をかなえるようサービスするのが「つくり手」と思われがちです。それがエスカレートしていくと、住まい手は「少しでも安くよいものを」と要求し、つくり手はそうした無理に呑まれまいと身構える、という対立構図が生まれます。特に家づくりは、大きな金額が動くことなので、施主とつくり手との間に気持ちの上で不均衡が生まれがちです。ところが、それが家づくりを進める時にマイナスにはたらくことも多いのです。誰かひとりが抜きんで得をすれば、誰かに無理やしわ寄せが行きます。そうすると、結果的に、よいものはできないのです。

よいものをつくるには、それを実現するのに最低限必要な費用はかける。これが「適正価格」です。どちらのネットワークでも「適正価格」を積算していった結果としてクリアに工事費を出しています。工務店の利益率や設計料もガラス張りです。「どんぶり勘定」「これくらいは出すだろう」「ちょっとはサービスで値切るだろう」そんな「タヌキの化かし合い」のようなあいさいさ、うやむやや、一切なし。そこにあるのは「これだけの仕事をするのに、これだけ必要なんです」「必要なお金をあなたに託します。いい仕事を期待しています」というすっきりとした、対等な信頼関係なのです。

信頼関係を裏付けるルール、育てる関係性



ひとときクラブでつくった木のおもちゃ

「この方法でならいっしょに仕事していける」そんな信頼関係で結ばれたつくり手同士のつながりがネットワークですが、実はつくり手だけでは、家づくりはできません。あたりまえですが、実際に家づくりをする「施主」がいることで始めて、ネットワークでの家づくりが動き出します。つくり手同士が対等な信頼関係で結ばれているのと同じように、住まい手も信頼関係を原理としてこのネットワークに加わる。それが、このネットワークが成立する何よりの前提です。

『ワークショップ「き」組』のサイトには「約束(ルール)」というページをわざわざ用意しています。基本仕様とオプションをきちんと分けて考える、価格はガラス張りにする、ねじれ、割れなど知らなければ欠陥かと思われてしまいかねない木の特性を理解してもらおう…。ちがった立場同士の間で対等な関係を健全に保つために「約束(ルール)」を最初から示しているのです。問題が起きそうになった時にお互いに「はじめに交わした約束」があれば、思いにみやすれちがいがおおごとにならないうちに、関係を修復できます。『ひとときネット』では、毎週第二土曜日に「ひとときクラブ」として事務所を開放しています。自然素材の端材を使っておもちゃや生活小物をつくる端材工房、生活のアイデアや住まいづくりの工夫をみつけよる生活工房、本格的な技術を体験する職人工房を開催。手づくりの楽しさを体験しながら、ゆっくりと信頼関係を築いていっています。

家づくりから町づくりへ



左 / 『ひとときネット』の
岩波正さん
右 / 『ワークショップ「き」組』の
松井郁夫さん

すばらしい意義があったとしても、それが大多数の人にとっては金額的に実現不可能、ということであれば、木の家づくりは広がっていきません。よい木の家が「庶民の家」としてたくさん建っていくために具体的な「道」をつける。ネットワークでの家づくりにそんな可能性を感じました。

その「道」は、経済原理だけでなく、信頼関係でできた道であり、ひとつの家をつくるだけでなく、環境や文化を育てることにまでつながる「正直な家づくりの道」です。「正直な家づくりの道」を歩く人が増えれば、その結果として「美しい町並み」も生まれるでしょう。全国にこのような小さなネットワークがたくさんできていくことを望んでやみません。

ひとときネット



モデルハウス(岩波さん自宅)



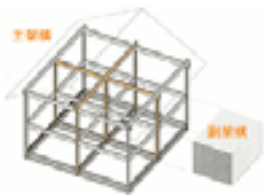
事例1



事例2

WEB	http://www.ex.biwane.jp/hitotoki/
事務局と代表者	三和総合設計内 岩波正 滋賀県大津市滋賀里四丁目11番3号
連絡先	hitotoki@ex.biwane.jp tel 077-525-4082 fax 077-528-5466
発足	平成14年
メンバー	設計:三和総合設計 施工:坂田工務店、坂元建築工芸、宮内建築 常に交流し、木考塾など学習会などにより技術の向上に努めています
エリア	滋賀県周辺
理念	1 住まい手、設計者、施工者が協力してつくる現代の生活にあう、木を活かしたデザイン性高い住まいづくり! 2 国産材を使った、日本の気候風土にあった木造在来工法住宅による耐久性の高い住まいづくり 3 一般的に建設されている価格帯でつくることのできる良質な住まいづくり 4 自然材料を中心に建てられる健康的な住まいづくり! 5 伝統的な技術を継承し、構造計算により確かめられた、耐震性の高い住まいづくり! 6 環境に優しい住まいづくり 7 ゆっくり考え、確認しながらつくる住まいづくり 8 安心して依頼できる住まいづくり!
告知の方法	インターネット、パンフレット
価格	多くの住まいが建設されている工事費坪60万くらい。基本プランをベースに詳細に設計された図面にもとづいて細かく積算。分かりやすい価格。設計費は10～15%
工期	標準6ヶ月
材	滋賀県産材を中心に使用。産地の確かな乾燥材。柱に檜またはスギ、土台にはヒバや檜。梁は杉材。すべて一等材を使用
基礎	基礎幅15cmのコンクリート
構造	大工の手加工による在来工法
素材	木を中心とした自然素材。
デザイン	デザインは、建築士、大工との打ち合わせのもとに練り上げる。地盤調査と構造計算を必ず実施
仕様	・床は杉板無塗装。 ・壁は杉板、オガファーザー自然塗料塗り、木創織物クロスなど。 ・断熱材はパーフェクトバリア(ペットボトル再生品)、サニークラウドなど。グラスウールは使わない ・標準的なシステムキッチン、ユニットバス。特にユニットバスは高価なものは使用しない ・屋根はガルバリウム鋼板平葺き ・構造計算は標準で行なう。通気構法も必ず行なう。気密施工も配慮するが断熱性を高めるためであり、ただ気密があがれば良いというわけではない。必要な仕様を確保した上で、できるだけ気密性を高める。そのやり方でも気密住宅の基準はクリアーする
仕様外(オプション)	エアコン、照明器具、造り付け家具、カーテン、外構工事、土壁、地盤改良費など
環境・文化へのコミット	近く山の木材を利用することで、山を荒廃から守り、二酸化炭素放出を抑える産業廃棄物にならない住まい
施工棟数	現在のべ6棟
特記	地元滋賀県にねぎし、住まいづくりを考える場を提供
イベントや展示	・現場構造見学会、完成見学会、産地見学 ・毎週第二土曜のひとときクラブ(端材工房、生活工房、職人工房) ・書籍やビデオの貸し出し ・自然材料の展示

ワークショップ「き」組

ワークショップ「き」組の
スタンダードモデルリニアタイプ(横長型)
基本プランキューブタイプ(立方体型)
基本プラン

WEB	http://kigumi.jp/
事務局と代表者	松井郁夫建築設計事務所内 松井郁夫 東京都中野区江原町1-46-12-203
連絡先	info@kigumi.jp tel 03-3951-0703 fax 03-5996-1370
発足	平成15年
メンバー	設計:松井郁夫建築設計事務所、木住研 施工:風基建設、目時工務店、キューブアンハウジング、古民家工房、石川工務店、持井工務店、 渡邊工務店、おだ住研 材:TSウッド(徳島杉)、モクネット事業協同組合(秋田杉)、浜中材木店(東京)
エリア	首都圏と福井
理念	1「無垢の木の家に住みたい」と考える住まい手の皆さんに、手の届く価格で「よい家」を提供したい。 2「伝統の技を持つ腕のよい職人さん」たちに「よい仕事」を残してもらいたい。 3「荒れている日本の山」に木を再び植える事によって「美しい山」に戻したい。 4 建主を中心とした山や職人や設計者との直接契約による協働の家づくり
告知の方法	インターネット
価格	30坪前後で工事費2000万くらい 価格はガラス張り。工務店の経費率は15%、設計料は工事費の13%
工期	工期は最低6ヶ月
材	国産材のスギが中心
基礎	フラットベット型ベタ基礎。土台はヒバ油で防蟻処理
構造	門型架構、足固め・貫によるホールダウン金物を使わない伝統構法
素材	無垢の木、漆喰など自然素材を多用
デザイン	門型フレームを基本構造とし、個々の生活に合わせてスタイルッシュでモダンなデザイン。 間取りと架構とを合致させる、木材の規格寸法を守るなどの整理。
仕様	・内部は床以外無塗装。床は天然塗料(米ぬかワックス)。 ・室内壁はシツクイ塗り、外壁は藁入り土壁風モルタル塗り。 ・壁は25mm断熱。フォレストボードを標準使用。 ・屋根の100mm断熱と通気構法で涼しい12階。 ・標準的なシステムキッチン、ユニットバス。
仕様外(オプション)	高級な設備機器、エアコン、次世代エネルギー基準仕様、壁通気構法仕様、品確法対応、 構造計算、造り付け家具、カーテン、門塀、造園、小舞土壁、瓦屋根等。
環境・文化へのコミット	荒れている山にふたたび木を植えられるような循環。家づくりは、職人がすぐれた伝統技術を発揮・ 継承していける機会。次の世代も住み続けられる長寿命の骨組みを伝統構法で提供する。
施工棟数	2003年度 着工1 計画2
特記	徹底的な設計&適正価格の見積もりにより、スタンダードプランをつくった
イベントや展示	・現場見学会、上棟見学会、完成見学会 ・木組の実大模型、継手・仕口模型あり

情報BOX

0010 滋賀県 設計 三和総合設計 / 岩波 正さんからの話題

2003.05.25

『ひろってきた木の枝や実で簡単な工作』



「自然のままの表情を活かしてつくれたら、どうやったらかわいくないですか。ヘタとかうまいとか関係ないから、いいんですよ」と、三和総合設計の岩波さん。6月号の特集記事でも紹介している「ひとときネット」で毎月第二土曜日にオープン工房を開いています。そこでつくられた作品に、簡単でかわいい工作のヒントがありました。

たとえば、こどもが大好きな「機関車トーマス」。直径3センチくらいの枝を指の長さくらいほどに切って、胴体にします。車輪には同じ枝の輪切りを。「ちょっとした工夫なんですけど、正面に手芸用に売っているシールの目だまをはるのがポイント」と岩波さん。たしかに、トーマスの顔に見えてきます。「まつぼっくりを木のキューブの上にちゅこんと置いただけのクリスマスツリーもいいですよ」生活に木の恵みをとり入れるのに、こんな簡単な方法もあるんですね。



『木とつきあう 智恵』 エルヴェン・トーマ著 宮下智恵子訳 地湧社刊

ヨーロッパにも、日本の木造軸組みとはまた違った形ですが、木を家具や住まいにつかう文化の伝統があります。この本の著者は営林署員として6年働いた後、製材業を営むようになったオーストリア人。近代林業に押されて顧みられなかった先人の智恵を大工である妻の祖父から学んで、伝統的な木の伐採や加工方法を自ら実践し、それを新たに発展させてきました。本書はそのいきさつを語りながら、無垢の木材の性能や魅力、木と人と大自然のつながりを描き出しています。ドイツでも、再生可能な資源である木を自然からの贈り物として受け取り、化学薬品で汚染せずに土に返そうという、大自然の循環にそった生き方の提案が多くの人に受け入れられていて、この本もベストセラーになったそうです。ぜひ一読を。

5～6月のイベント等のお知らせ

2003.8.2～4 【告知】

今年も「大平建築塾」が開かれます

長野県飯田市から西に約20km、山道の大平街道を妻籠に向けて走ると、峠の宿場町「大平宿」があります。「大平建築塾」においては、毎回掲げられるメインテーマに基づいた基調講演や分科会が開かれますが、楽しい夜会講演や懇親会も用意されています。全国各地からの100人を超える参加者は数棟の民家に分宿し、食事はいろいろなどを使って自炊します。「大平建築塾」では、かつての民家の生活を原体験しながら、新しい出会いも期待できます。また、大平宿の民家は木造建築を学びたい人にとって、うってつけの教科書にもなるでしょう。

【日時】8月2日(土)～8月4日(月)

【内容】

- ・基調講演:「保存と創造を結ぶ」 講師:吉田桂二(建築家)
- ・分科会(予定)
- 「伝統的木造技術の課題と可能性」講師:宮越喜彦(建築家)
- 「ひとたち折り紙の創作、実演」講師:山本厚生(建築家)
- 「建築家 吉田桂二分析」講師:若手建築家グループ
- 「集落のデザインエッセンスを今に生かす」講師:長谷川順持(建築家)

【参加費】

- ・A日程(3日間参加) 一般:15,000円 学生:10,000円
- ・B日程(前半/後半何れか2日間参加) 一般:12,000円 学生:8,000円

【お問合せ】

FAXまたはメールにてお願いします。
第10回大平建築塾実行委員会事務局
松本建築設計室 松本昌義
〒273-0031 船橋市西船4-26-36
TEL/FAX : 047-433-5074
E-mail : mmatumo@d1.dion.ne.jp

2003.5.7 【報告】

「秋田版土壁」での構造実験開始

国土交通省の方針として、建築基準法内で伝統構法をきちんと位置づけていくという動きがあり、自然材料である「土」を使った土壁も、環境面で再評価されはじまりました。現在の建築基準法は全国一律の法律ですが、その地域の材料や技術でできている土壁は種類も様々。土壁をきちんと評価するには「都道府県単位で地域特性を活かした位置づけ、法的緩和が必要では」という意見も出てきています。こうした考えを裏付ける「秋田版土壁実験」が、秋田県立大学木材高度加工研究所の鈴木有教授の研究グループではじまりました。試験体となる土壁の制作に木の家ネットメンバーの鹿角の左官職、高田忠一さんが携わっています。

2003.5.3 【報告】

鹿角の「関善酒店」保存という方向は決まったけれど・・・

十和田湖で有名な秋田県鹿角市。その中心部の花輪地区は、毎年8/19に、豪華絢爛に飾った各町の屋台が、勇壮な囃子にあわせて町内を練り歩く「花輪囃子」(日本三大囃子のひとつにも数えられている)が行われることで有名なところ。その花輪地区六日町の商店街に、明治38年に建てられた古い酒屋「関善酒店」があります。店先の軒を長く出して雪深い季節にも買い物しやすいようアーケード状にした「ゴミセ」が残されているのが、建築学的にも重要。住居部分も重厚な梁がめぐっています。道路拡張にかかって取り壊されそうになっているこの建物を、商店街の中心的な施設として再生し活用しようという運動「関家建物の保存活用を望む市民有志の会」(代表:奈良東一郎、鈴木有)が起きています。

木の家ネットメンバーの高田忠一さんが7000人以上の署名を集め、市に寄贈する形で「公設民営」の施設にするよう市にはたらきかけていますが、市からは「民設民営」との回答。実際には、曳家移転費用、毎年の雪下ろしの費用、固定資産税など、民間では維持しきれないのが現状。維持するにはお金がかかるのが歴史的建築物の常。今回の場合は商店街の中の建物でもあり、保存だけでなく積極的な利活用をすれば、地域おこしにもつながり得ます。社会的な資産の保全運用については行政がかかわることが望まれます。以前にも同じような事情で市民の願いもむなく取り壊された建物もあり、そうならないよう引き続きはたらきかけていくということです。

また、一方で、「公設民営」がかなわなかった場合に、どのようにこの建物を維持していけるのか、そのための話し合いも重ねていくそうです。支援の方法など、具体的なことができたら、木の家ネットでもお知らせします。東北方面に旅行に行かれる方は、ぜひ足をのばしてみてください!!

おしらせ

2001年11月号より、バックナンバーを発行し、「木の家ネット」のコンテンツをオンラインでご覧になれる会員の方にファックスでお送りするサービスを始めました。パソコンをお使いになるようになられましたら、木の家ネット事務局衣袋(tel&fax:03-5393-3640 jimukyoku@kino-ie.net)までご一報ください。